

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 9 月 3 日 (18 : 35 ~ 19 : 40)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 6 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	6 人	7 人	0 人	0 人	13 人

前回の改善計画
初回ご利用者・ご家族に対する配慮 (帰宅後の声かけや電話等の様子確認、次回ご利用時に前回からのご様子観察) を行う体制、基盤を作る。確認したら内容を申し送りノートに記載し情報共有をはかる。
前回の改善計画に対する取組み結果
初回ご利用後のご様子確認を行う体制・基盤は作ることができた。確認した情報を申し送りノート (日々の連絡用) に記載し情報共有することが不十分。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	7	6	0	0	13
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	6	7	0	0	13
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	5	8	0	0	13
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	5	6	1	1	13

できている点
・計画作成担当者が集めた情報を申し送りノートやミーティング等で共有ができている。それが定着したことにより、スタッフ自身からも情報を取得しようとする姿勢がついている。 ・情報をもとに初回利用時には個々の状態に合わせた支援を心がけることができている。 ・利用直後は送迎や連絡帳 (事業所とご家族間) によるご様子の報告ができている。次回ご利用時には、利用後のご利用者の心境の変化の有無についてご家族等に確認する体制ができている。

できていない点
・計画作成担当者が作成した事前の情報と利用開始後の情報との相違について、確認後の情報共有を口頭でのみ行うことが多く、書面等で全員が確認する機会が整っていない。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・新規のご利用者は、初回ご利用の様子を当日中に振り返り事前の情報とのすり合わせを行う。事前情報に使用している「フェイスシート」を活用し、書き加えたものを周知する。また、今まで活用してきた申し送りノートは継続し、より密な情報共有に努める。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 9 月 3 日 (20 : 15 ~ 21 : 25)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 6 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	3 人	5 人	4 人	1 人	人

前回の改善計画

スタッフ一人ひとりがご利用者のケースファイル (ご利用者個人の情報) 等を確認し意識をもつことで、目標に対する再確認をする。

前回の改善計画に対する取組み結果

ケースファイルを確認する意識化はできず、ご利用者の目標に対する確認は口頭、申し送りノートで行うことが多い結果となった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	3	8	2	0	13
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	3	8	2	0	13
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	3	6	4	0	13
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	4	6	3	0	13

できている点

ご利用者個人の当面の目標をスタッフが申し送りノートや伝達で確認し、ご利用者が望む日常生活に必要な支援ができている。

できていない点

長期的な目標を確認することが現場スタッフまで浸透しておらず、口頭伝達であることが多いため、ご利用者全員の把握までには至らず。当面の目標の支援に目が向く傾向がある。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)

フェイスシートの内容を再検討し、スタッフ全員がフェイスシートを確認する意識を持つ。その中に目標を記載することで、ご利用者の目標確認、援助内容を把握する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 9 月 3 日 (21 : 25 ~ 22 : 30)

3. 日常生活の支援

メンバー 6 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5 人	5 人	1 人	1 人	12 人

前回の改善計画
・即自的な情報、長期的な情報を的確に把握できるよう申し送りノート、フェイスシートの活用を明確化する。
前回の改善計画に対する取組み結果
・即自的な情報は申し送りノートにより把握できたが、フェイスシートの活用が不十分だったため、長期的な情報を把握できず、申し送りノートとフェイスシートとを活用することによる明確化には至らなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか?	1	3	9	0	13
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	7	6	0	0	13
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	3	7	2	0	12
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	5	8	0	0	13
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	4	6	3	0	13

できている点
・ミーティングや申し送りノート等でご本人の情報共有ができていたため、個々に合わせた支援を行うことができていた。 ・ご利用者の急な心身の変化に対して、スタッフ間の報告→情報の集約→支援の指示→実行までの一連の体制が整っているため、即自的な支援を実施することができていた。

できていない点
・徐々に心身の変化が起きたことに対して情報の共有はできているものの、支援の変更決断に至るまでにはスタッフ間の知識や経験の差により、時間を要してしまうことがある。

次回までの具体的な改善計画
・申し送りノートは継続活用し、また、フェイスシートを有効的に活用することで、ご利用者に即自的な支援を行う。フェイスシートの活用により、共通の情報を得ることでスタッフ間の知識や経験差を埋め、より即自的な支援の実行ができるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 9 月 3 日 (22 : 30 ~23 : 45)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 6 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2 人	8 人	2 人	0 人	12 人

前回の改善計画
スタッフ一人ひとりがご利用者の生活に必要な課題に気がつくように、ご利用者との会話等から引き出すコミュニケーション能力を向上する。
前回の改善計画に対する取組み結果
ご利用者やご家族、地域の方の会話等から情報を引き出す意識が高まり、ご利用者の地域での暮らしの情報が増えた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	2	10	1	0	13
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	1	9	3	0	13
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	2	6	5	0	13
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	0	8	5	0	13

できている点
・ご利用者のご自宅での様子は、ご本人やご家族との会話の中から引き出すことができている。 ・独居生活者については、民生委員や近隣住民からの情報提供等により過ごし方の把握ができている。

できていない点
・ご利用者のご自宅での情報を把握はできているが、知り得た情報のスタッフ間の共有不足や、課題抽出に至っていないことが多い。事業所と、地域の関係者との関わりが少ないご利用者に対しては情報収集手段が少なく、課題抽出が難しい。

次回までの具体的な改善計画
訪問や送迎時等の援助の中での関わり等で見えるご利用者の情報から地域の課題を抽出する。ご利用者、ご家族が地域の資源を活用できる提案を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 9 月 6 日 (18:40 ~19:30)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 6 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	10 人	1 人	0 人	12 人

前回の改善計画
ご利用者だけでなく、介護をしているご家族の支援、資源の把握、提案をしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果
・事業所が訪問時や送迎時にご家族との関係性を深める取り組みを実施したことで、相談しやすい環境作り、資源の提案ができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	2	10	1	0	13
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	9	4	0	0	13
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	8	5	0	0	13
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	8	5	0	0	13

できている点
・ご本人、ご家族のニーズを連絡帳や送迎時のご利用者・ご家族の状況から把握し、スタッフ間で共有していることにより、個々の状態に合わせて柔軟な対応ができています。

できていない点
・ご自宅で生じた課題を事業所の支援・サービスで解決しようとし、新たな資源の提案に至っていない。

次回までの具体的な改善計画
・再度、事業所内で地域資源について学ぶ。事業所としてインフォーマルな地域資源を把握し、有効な資源をご利用者、ご家族に提案していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 9 月 6 日 (19 : 30 ~ 20 : 15)

6. 連携・協働

メンバー 6 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	4 人	5 人	4 人	0 人	13 人

前回の改善計画	
「地域」に対する意識を深めるために会議の内容を共有する。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
地域の会議等に参加し、事業所にとって必要な情報を共有することができた。	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	4	7	1	1	13
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	3	8	1	1	13
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	4	7	1	1	13
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	1	2	6	4	13

できている点	
・会議や地域の活動には事業所の担当者が参加し、共有の必要性がある内容については、担当者から周知ができていたため共有ができていた。	

できていない点	
・年間スケジュールにあるイベントや会議には参加しているが、日常的に地域への参加や活動には至っていない。	

次回までの具体的な改善計画	
・訪問時、送迎時、来所時等に、スタッフ全員が事業所の特長が伝えられる体制にすることで、事業所の外とのつながりを保つ意識をもち、「地域」に対するスタッフの意識向上をはかる。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30年 9月 6日(20 :15 ~20: 45)

7. 運営

メンバー 6名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0人	3人	8人	1人	12人

前回の改善計画	地域の拠点として、事業所の活動をお知らせし参加を募る。
前回の改善計画に対する取組み結果	運営推進会議を活用し事業報告や防災訓練等の案内を行い、参加を募ることはできたが、告知が口頭であるために、その場限りとなる結果となった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	1	9	3	0	13
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	5	8	0	0	0
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	8	1	0	13
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	2	3	8	0	13

できている点	・運営推進会議の場において、「災害時福祉避難事業所」であるため、災害時の受け入れ場所を自治会や民生委員、地域包括支援センター等に伝える取組みができている。
--------	---

できていない点	・運営について報告はしているが、ご利用者、家族、地域の方から意見を求める機会は少ない。 ・スタッフ全員が「運営」に対する意識にまでは向いていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	・事業所の活動報告を運営推進会議の場で報告できる体制を継続。また、スタッフ会議等を通じて、事業所スタッフ全員が「運営」に対する意識を向けられるようにしていく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30年9 月 6日(21 : 00 ~21 :55)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 6名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	3人	8人	2人	0人	13人

前回の改善計画	法人内研修は最低6回開催しているため、スタッフへの参加の啓発を行い、質の向上をはかる。
前回の改善計画に対する取組み結果	・法人内研修の周知を行い、スタッフの参加人数は増え、仕事の質の向上には繋がったものの、不参加者への共有不足が残る結果となった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	4	6	3	0	13
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	3	7	3	0	13
③	地域連絡会に参加していますか	5	4	2	2	13
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	4	4	5	0	13

できている点	・ご利用者のニーズに対する支援態勢を向上するために、スタッフ個人個人のスキル向上意欲が高まり、研修会等への参加回数が増えている。
--------	--

できていない点	・直面する課題に対して、解決に向けた研修や勉強会等を即自的に行う機会を持つことができていない。 ・研修会等への参加意欲があっても、事情や当日の勤務により参加できないスタッフがいる。 ・研修に参加したスタッフが不参加者に対して、十分に伝達できるスキルが不足しており、内容を伝達できていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・現に直面する課題に対しての勉強会をスタッフ会議や夕方の時間を活用し開催し、有効的な質の向上をはかる。不参加者にも伝達できる体制づくりを行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 9 月 6 日 (21 : 55 ~ 22 : 35)

9. 人権・プライバシー

メンバー 6 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	9 人	1 人	0 人	13 人

前回の改善計画	・ プライバシーと個人情報に対する意識向上のための勉強を継続実施。
前回の改善計画に対する取組み結果	・ 勉強会を実施し、プライバシー、個人情報、拘束に対してスタッフ全員で意識の再確認ができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	11	2	0	0	13
②	虐待は行われていない	11	2	0	0	13
③	プライバシーが守られている	6	6	1	0	13
④	必要な方に成年後見制度を活用している	3	5	2	1	11
⑤	適正な個人情報の管理ができている	6	5	2	0	13

できている点	・ 身体拘束や虐待のチェックリストを活用し、身体拘束や虐待に対する意識調査、また、スタッフの思いをその場で共有することでスタッフ全員の意識の再確認ができている。
--------	--

できていない点	・ プライバシーの配慮に対する意識を持ちつつも、日常的な関わりで配慮が欠けていることがある。スタッフ会議の場で勉強会を行い、プライバシーに対する再認識をスタッフ間で行うが、時間の経過により意識が薄れてしまうことがある。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	・ プライバシーに対する意識の強化、定着をはかるため、スタッフ会議を活用し毎月プライバシーに対する意見交換や事例検討を実施する。
---------------	--